

# ジェンダー史学会特別企画シンポジウム

## 「ジェンダー史の今後を考える

### — 『ジェンダー史叢書』 完結によせて —

〔日時〕 2012年3月4日(日)14:00~17:30

〔会場〕 津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール1階 会議室 <http://tsudahall.com/>

(JR 中央・総武線「千駄ヶ谷」駅 都営地下鉄大江戸線「国立競技場」駅A4出口)

#### 〔開催趣旨〕

2009年7月から刊行を開始した『ジェンダー史叢書』(全8巻、明石書店)が、このたび全巻完結致しました。

同シリーズは、ジェンダーの視点から人類史にアプローチし、その最新の学問的成果を広く学界や社会で共有することをめざして刊行されたものです。150名を超える執筆陣が、現代的課題を重視しつつ、学際的・国際的視野から包括的なジェンダー・アプローチを行うことで、ジェンダー史研究のみならず隣接諸科学も含む学術研究の発展にも貢献することを意図したものです。

『ジェンダー史叢書』の執筆陣の多くは本学会の会員であり、ジェンダー史学会として、叢書の刊行が如何なる意義を有するのか議論することは、本学会が今後切り拓いていかなければならない領域が数多くあることを考えると、今後の会活動にとって是非とも必要なことであります。

シンポジウムは、まず、叢書刊行の側からその意義と問題点等を提起し、それをふまえつつ、今後ジェンダー史をどう切り拓いていくべきか報告者の方々に論じていただきます。

#### 〔報告〕

『ジェンダー史叢書』刊行の意義と今後の課題 長野ひろ子(中央大学)

表象研究とジェンダー史 千葉 慶(千葉大学等非常勤講師)

ジェンダー史と男性史研究 兼子 歩(長野県短期大学)

ジェンダー史研究とアジア 須藤瑞代(日本学術振興会特別研究員)

「新しい世界史」とジェンダー史 羽田 正(東京大学)